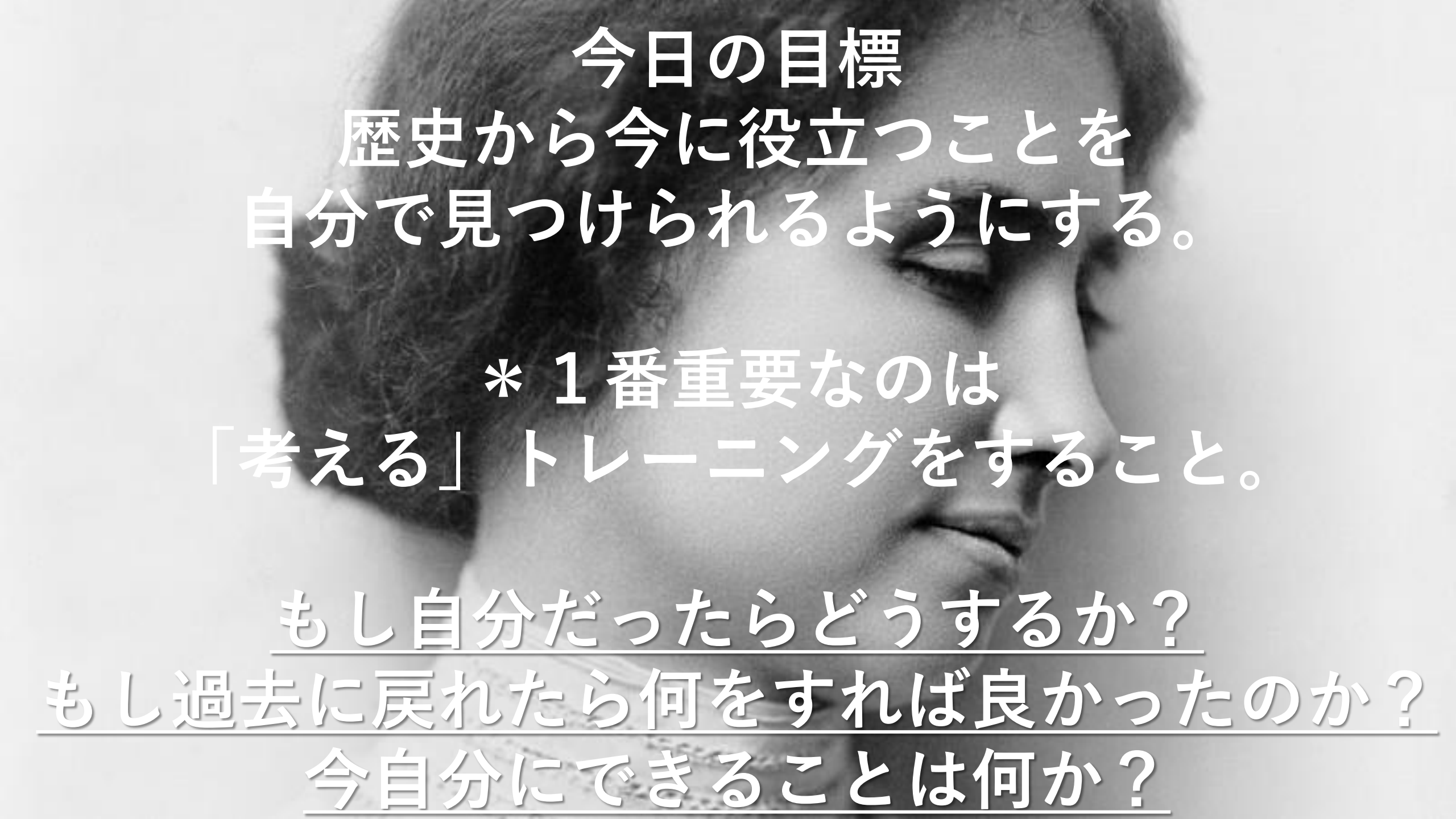
人物史と
そのゆかりの地



今日の目標
歴史から今に役立つことを
自分で見つけられるようにする。

＊１番重要なのは
「考える」トレーニングをすること。

もし自分だったらどうするか？
もし過去に戻れたら何をすれば良かったのか？
今自分にできることは何か？

★ヘレン・ケラーの略歴

1880年　アメリカアラバマ州、タスカンビアにて誕生

1882年　発熱で聴力と視力を失う

1886年　ベル博士、サリバン先生と出会う

1896年　ケンブリッジ女学院入学

1900年　ラドクリフ女子大学を受験し合格

1903年　初の自伝、女性の参政権など社会改革に乗り出す

1968年　自宅で永眠

★人生のターニングポイント①
ヘレンが２歳になる前に、原因不明の高熱と腹痛により、医者から告げられた。

「残念ですが、娘さんは高熱が続いたせいで、視力と聴力を失ってしまいます。今後、ものを見ることも音を聞くこともできないでしょう。」

★人生のターニングポイント①
その後、両親は、何人もの有名な医者をたずね、診察してもらったが、どの医者もヘレンの視力・聴力は戻らないと言った。

両親は、ヘレンにどうしたか。

＊ヒント
　まずは選択肢を考えてみよう。
　数多く広げられると良い。

★人生のターニングポイント①
その後、両親は、何人もの有名な医者をたずね、診察してもらったが、どの医者もヘレンの視力・聴力は戻らないと言った。

両親は、ヘレンにどうしたか。

＊選択肢
①人生をあきらめるしかない
②他の有名な医者にあたってみる
③海外に行ってみる

★人生のターニングポイント①
その後、両親は、何人もの有名な医者をたずね、診察してもらったが、どの医者もヘレンの視力・聴力は戻らないと言った。

両親は、ヘレンにどうしたか。

他の有名な医者にあたってみる
約1200㌔離れたアメリカ東部
ボルティモアの名医のところへ行った。

★人生のターニングポイント①
ボルティモアの名医によって、ベル博士に会うことをすすめられる。

ベル博士は、電話を発明した人物であると同時に、ろう学校（耳が聞こえない人の学校）にも詳しい人物だった。

★人生のターニングポイント①
さらに、ベル博士によって、パーキンス盲学校の校長先生を紹介される。
そして、校長先生によって、ヘレンの家庭教師（サリバン先生）を紹介される。

★人生のターニングポイント②
ヘレン（当時７歳）の家庭教師、サリバン先生（当時２１歳）について、小さいころ目に障がいを持っており、大人になって手術を受けて視力が回復したという経歴を持つ。
ヘレンの気持ちがわかる先生だった。

毎日一緒に寝起きをして、ヘレンと家族のように過ごす。

★人生のターニングポイント②
当時７歳のヘレンは、両親に甘やかされて、勉強どころではなく、やりたい放題だった。

例えば、ヘレンの食事のとり方は、皿の上にある食べ物は何でも手でつかんで食べてしまう。
人の皿でもかまわなかった。

★人生のターニングポイント②
サリバン先生は、何度もスプーンを握らせるが、ヘレンはすぐにそれを投げ出して、ふたたび食べ物をつかもうとする。

サリバン先生はどうやって教えただろうか。

＊ヒント
まずは選択肢を考えてみよう。
数多く広げられると良い。

★人生のターニングポイント②
サリバン先生は、何度もスプーンを握らせるが、ヘレンはすぐにそれを投げ出して、ふたたび食べ物をつかもうとする。

サリバン先生はどうやって教えただろうか。

ヘレンの手をピシャリとたたき、
わかるまで教えた。
両親が泣きそうな顔で訴えるも
やめなかった。
サリバン先生も心の中で泣いていた。

★人生のターニングポイント③
１６歳になったヘレンは、ケンブリッジ女学院に入学し、大学への進学も考えていた。

教室にはヘレン以外に体に不自由のある生徒はいない。

サリバン先生は授業中、教師が話す内容を一言ももらさずに指文字でヘレンに伝える。
また授業以外でも、当時は点字の本が少なく、勉強に必要な本があれば、サリバン先生がそれを全て読んでその内容をヘレンに伝えていた。

★人生のターニングポイント③
大学入学試験は、英語、数学、歴史、フランス語、ドイツ語、ラテン語、ギリシャの古典など全１５科目。

点字の本を何度も何度も読んで、指先が切れ、点字の本はヘレンの血でところどころ赤く染まるほどだった。

目と耳が聞こえないという、とてつもないハンデを背負ったままの受験。
みんなならどうする？

★人生のターニングポイント③

アメリカの女子大学の中で最も難しいと言われていた、ハーバード大学の女子部である、ラドクリフ女子大学を受験し、見事合格。

各新聞社は、ヘレンの合格を記事にした。
「視聴覚障がい者、ヘレン・ケラーのラドクリフ女子大学合格は人類始まって以来の快挙！」

大学１年生のときに、ヘレンにある話が舞い込む。
「自伝を書いて欲しい」

★人生のターニングポイント④

1905年、大学を卒業したヘレン（当時２５歳）
「わたしは生涯を通じて、どのような仕事をしていこうか」と常に考えていた。

ここまで来たあなたがヘレンだったら
将来どうするか。

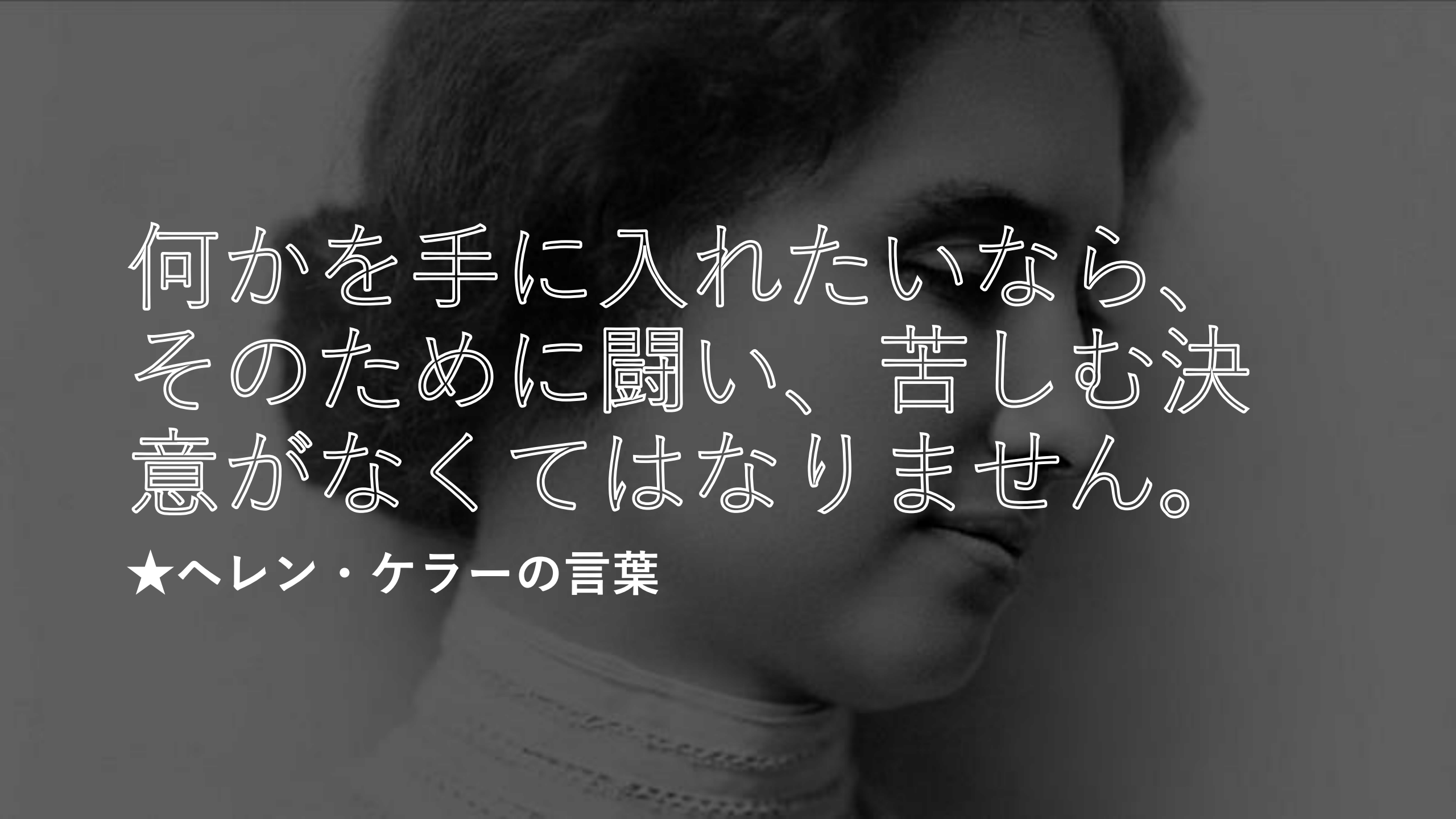
＊ヒント
　まずは選択肢を考えてみよう。
　数多く広げられると良い。

★人生のターニングポイント④

一生を体の不自由な人のためにささげることを決意。

不自由な人が仕事ができるための環境をつくる
「生まれたばかりの赤ちゃんが目の消毒をする」などの
法律の整備
女性の選挙権を保障させる

⇒国際会議や、さまざまな場所での講演活動
⇒自伝などの本、新聞や雑誌の原稿など出版活動


何かを手に入れたいなら、
そのために闘い、苦しむ決
意がなくてはなりません。
★ヘレン・ケラーの言葉

★ヘレン・ケラーの言葉

でも、必ずできると考えます。
忍耐と根気が最後に勝つとわかっていますから。